

小児看護学実習

I. 目的

小児期にある対象を理解し、成長発達段階にある、あらゆる健康状態の対象に応じた看護ができる基礎的能力を養う。

II. 目標

1. 健康障害を持つ対象の成長発達段階の特徴をふまえ、身体的・精神的・社会的側面から理解できる。
2. 小児のおかれている環境や状況（健康状態や入院、治療）が対象の成長発達や生活状況、家族に及ぼす影響を理解し、成長発達を促す援助ができる。
3. 小児各期に応じた看護技術を小児の人権を尊重し実施できる。
4. 対象を取り巻く保健医療福祉チームの連携の中で小児看護の役割、継続看護の実際を理解できる。

上記の目標をふまえて、小児科外来、保育園の目標を以下に示す。

〈小児科外来〉

1. 小児と家族に対する外来看護の役割を理解できる。
2. 慢性疾患により入退院を繰り返す小児と家族への継続看護の実際を理解できる。
3. 乳幼児の健康診査の実際を理解できる。
4. 診察や処置を受ける小児に必要な援助を実施できる。

〈保育園〉

1. 乳幼児期の成長・発達が理解できる。
2. 乳幼児期の基本的な生活習慣と援助の実際について理解できる。
3. 乳幼児を取り巻く環境が成長・発達に及ぼす影響について理解できる。
4. 乳幼児の遊びの意義について理解し、成長発達を促す援助ができる。

III. 実習時期

2年次後期～3年次後期

IV. 実習場所

岡山医療センター：6B病棟・小児科外来

福山医療センター：2B病棟・小児科外来

くるみ保育園

V. 行動目標および学習内容

＜ 小児病棟 ＞

実習目標	行動目標	学習内容
1. 健康障害を持つ対象の成長発達段階の特徴をふまえ、身体的・精神的・社会的側面から理解できる。	1) 成長発達に応じた形態的、生理機能的、感覚・運動機能的特徴が述べられる。 2) 成長発達に応じた認知・言語機能の特徴が述べられる。	形態的、生理機能的特徴、感覚・運動機能、身体計測、カウプ指数、ローレル指数、身体バランスなどの体格評価、栄養状態の評価 認知機能（ピアジェの認知発達理論）、言語機能

実習目標	行動目標	学習内容
	3) 成長発達に応じた情緒・社会性の特徴が述べられる。	情緒・社会性機能、エリクソンの自我発達理論、ボウルヴィの愛着理論
2. 小児のおかれている環境や状況（健康障害や入院、治療）が対象の成長発達や生活状況、家族に及ぼす影響を理解し、成長発達を促す援助ができる。	<p>1) 健康障害や入院、治療が対象の成長発達に及ぼす影響が述べられる。</p> <p>2) 対象の健康障害、入院、治療が家族に及ぼす影響が述べられる。</p> <p>3) 小児とその家族の状況をふまえたアセスメントし、対象に必要な看護計画が立案できる。</p> <p>4) 立案した援助が看護計画をもとに実施できる。</p>	<p>小児の生理機能的特徴、疾患の病態生理、成長発達に影響する因子（遺伝的因子、環境的因子）、症状、治療方針、治療内容、治療に伴う制限、ストレス反応、成長発達の評価、母子相互作用、分離不安、愛着形成、小児の基本的な生活習慣（食事、睡眠、排泄、清潔、衣服の着脱）、幼稚園・保育園・学校での生活</p> <p>家族構成、家族の経済状況、家族の就業状況、家族の支援態勢、面会状況、小児の入院、治療が家族に及ぼす影響</p> <p>遊び、学習への援助、症状に応じた援助、周手術期の援助、全身麻酔を受ける小児の援助</p> <p>授乳方法、離乳食に関する指導、睡眠確保のための指導、オムツ交換、トイレトレーニング、清潔行動習慣化の指導、齲歯予防の指導、衣類の選択と着脱の指導、家族への保健指導（小児慢性特定疾患、伝染病予防、予防接種法）、家族とのコミュニケーション</p>
3. 小児各期に応じた看護技術を小児の人権を尊重し実施できる。	1) 身体侵襲を伴う処置を受ける小児に対するプレパレーションについて述べられる。	診察・治療の介助、末梢静脈内持続点滴の管理方法など、検査時の介助（採血、採尿、腰椎穿刺、骨髄穿刺など）、抑制、プレパレーション、インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント、治療処置に対する小児の意欲を引き出す援助、小児看護領域で留意すべき子どもの権利と看護行為

実習目標	行動目標	学習内容
	2) 症状に応じた援助が実施できる。 3) 小児の成長発達に合わせたコミュニケーションがとれる。 4) 小児の安全を守るための援助ができる。	小児疾患に特有の症状とその症状に応じた援助（発熱、発疹、嘔吐、脱水、呼吸困難、チアノーゼ、痙攣、下痢・便秘など） わかりやすい説明方法、視線、声のトーンと速度、遊びを取り入れた工夫 環境整備、安全教育、感染予防対策、個人情報保護
4. 対象を取り巻く保健医療福祉チームの連携の中で小児看護の役割、継続看護の実際を理解できる。	1) 他職種との連携の必要性について述べられる。 2) 小児看護における看護師の役割と責務について述べられる。	他職種との連携の必要性、継続看護、保育士との連携 人としての尊厳と家族のありようを支える、成長・発達を支える、生涯にわたる健康の基盤づくり、苦痛緩和と健康管理、家族の支援

< 小児科外来 >

実習目標	行動目標	学習内容
1. 小児と家族に対する外来看護の役割を理解できる。	1) 小児外来の機能・構造について述べられる。 2) 小児外来における看護師の役割が述べられる。	小児外来の機能、構造、設備（安全、感染防止、不安緩和、年齢に合わせた物品） 小児の安全の確保と的確な対応、保健指導、公衆衛生活動
2. 慢性疾患により入退院を繰り返す小児と家族への継続看護の実際を理解できる。	1) 慢性疾患の小児と家族を取り巻く環境について述べられる。 2) 病棟と外来、地域社会との連携について述べられる。	小児と家族を取り巻く環境（学校・特別支援学校）、予防接種、疾病構造の変化、児童福祉法（小児慢性特定疾患治療研究事業）、障害者総合支援法（自立支援給付、地域生活支援事業）、児童虐待防止法、病棟・地域との連携
3. 乳幼児の健康診査の実際を理解できる。	1) 乳幼児健康診査の内容について述べられる。 2) 小児の身体計測が実施できる。	母子保健法（母子保健対策事業）、乳幼児健康診査の内容 体重測定、身長測定、頭囲測定、胸囲測定
4. 診察や処置を受ける小児に必要な援助を実施できる。	1) 身体侵襲を伴う処置を受ける小児への援助方法が述べられる。	処置に対する恐怖、プレパレーション、インフォームドアセント、身体固定、安全の確保

実習目標	行動目標	学習内容
	2) プライバシーを保持しながら、診察の介助が実施できる。	プライバシーの確保、羞恥心への配慮、個人情報の保護 診察の介助、身体固定

< 保育園 >

実習目標	行動目標	学習内容
1. 乳幼児期の成長・発達が理解できる。	1) 乳幼児の形態的、生理的特徴が述べられる。 2) 乳幼児の感覚・運動機能的特徴が述べられる。 3) 乳幼児の認知・言語機能の特徴が述べられる。 4) 乳幼児の情緒・社会性の特徴が述べられる。	乳幼児の形態的、生理的特徴、感覚・運動機能的特徴、認知・言語機能の特徴、情緒・社会性の特徴、身体のバランスや姿勢、自己中心性、コミュニケーション機能、自律性・自発性、感情表出、子ども同士の関係性と集団生活
2. 乳幼児期の基本的生活習慣と援助の実際について理解できる。	1) 乳幼児の日課から基本的生活習慣について述べられる。 2) 乳幼児の基本的生活習慣の獲得に向けた援助が理解できる。	乳幼児の基本的生活習慣（食事、おやつ、睡眠、排泄、清潔、衣類の着脱）、保育園における一日の過ごし方、乳幼児の日常生活の世話、自立に向けた援助
3. 乳幼児を取り巻く環境が成長・発達に及ぼす影響について理解できる。	1) 乳幼児を取り巻く環境について述べられる。 2) 乳幼児の生活環境が、成長・発達に及ぼす影響について述べられる。	保育園の物理的環境の実際と特徴、乳幼児に起こりやすい事故と事故防止、乳幼児の安全を守る施設の構造と設備、保育園における規則や季節の行事
4. 乳幼児の遊びの意義について理解し、成長発達を促す援助ができる。	1) 乳幼児の遊びの意義について述べられる。 2) 乳幼児の成長発達を促す遊びが実施できる。	乳幼児の遊びの種類と特徴、乳幼児の遊びに適切な玩具や環境、集団の中での遊びの実際と工夫、乳幼児の発達段階にあわせたコミュニケーション、社会性の発達への援助